マダニ対策、今できること

1. マダニの生息場所
2. マダニから身を守る服装
3. マダニから身を守る方法
4. 忌避剤の効果
5. 国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

フタトゲチマダニ

タカサゴキララマダニ

参考資料
1) マダニの分類とマダニ媒介感染症
2) マダニ媒介SFTSとは
3) マダニの生活環

朝賀 仲路　Illustrations
衛生昆虫写真館　Photos

マダニ対策に関するお問い合わせ

JIHS
国立健康危機管理研究機構

国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所
昆虫医科学部
Tel: 03-5285-1111 (代表)

SFTS対策全般に関するお問い合わせ

国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所
Tel: 03-5285-1111 (代表)

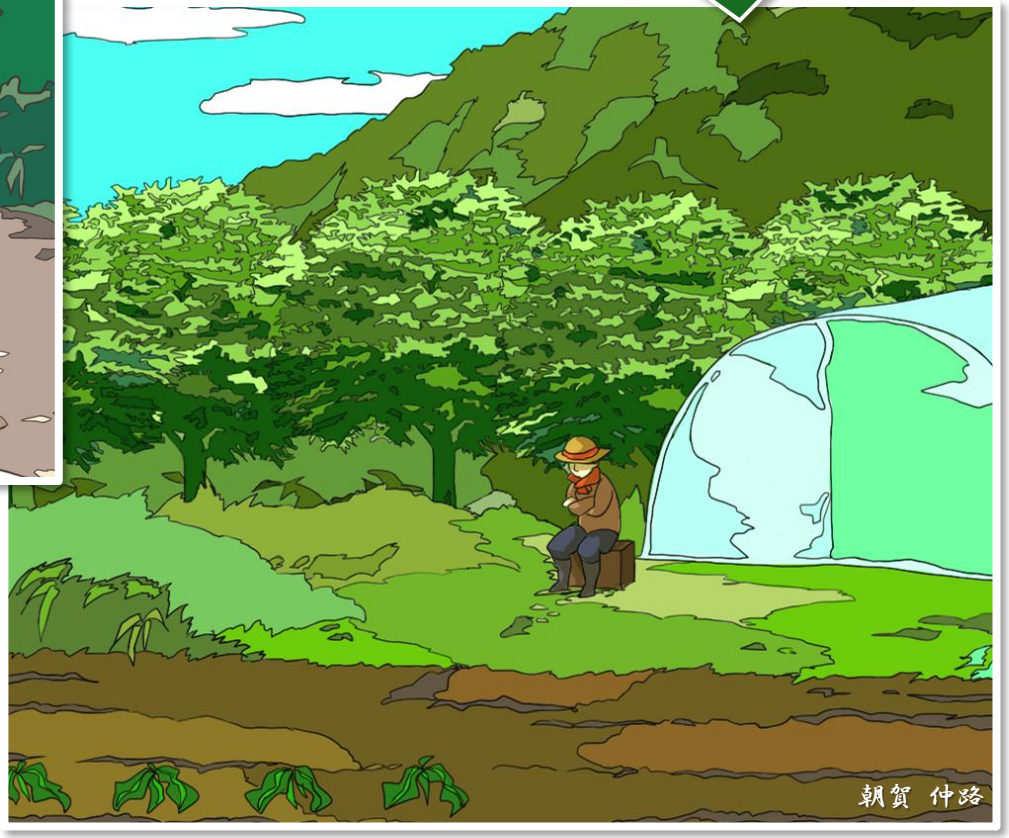
厚生労働省 健康・生活衛生局
感染症対策部 感染症対策課
Tel: 03-5253-1111 (代表)

昆虫医科学部ホームページ: https://www.niid.jihs.go.jp/content2/research_department/ent/from-ent.html（2025年7月1日更新）

1.　マダニの生息場所

マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。

マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。



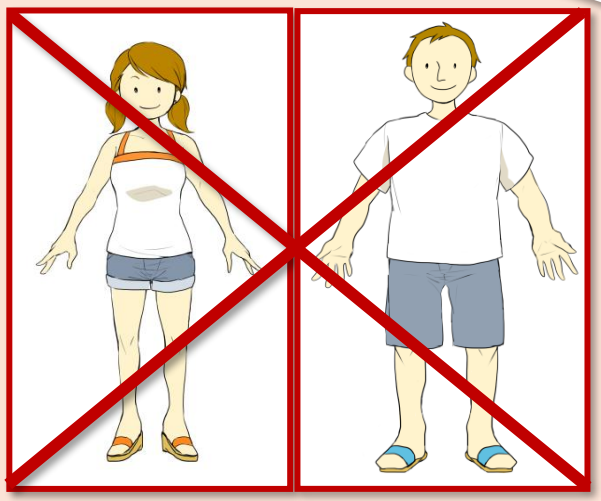
2.　マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

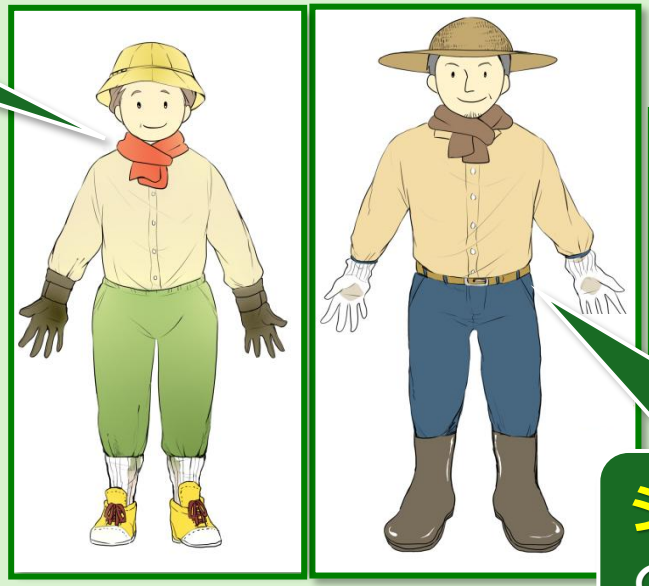
首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。

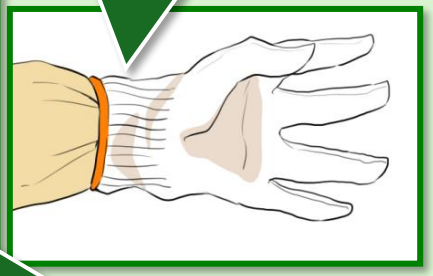
明るい色の服はマダニが確認しやすいです。

シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れましょう。



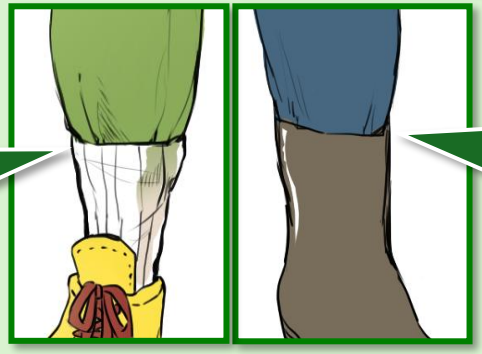
半ズボンやサンダル履きは不適当です！





シャツの裾はズボンの中に入れましょう。

ハイキングなどで山林に入る場合は、**ズボンの裾**に靴下を被せましょう。



農作業や草刈などでは**ズボンの裾**は長靴の中に入れましょう。

3.　マダニから身を守る方法

上着や作業着は、家の中に持ち込まないようにしましょう。

屋外活動後は、**シャワーや入浴**で、ダニ※が付いていないかチェックしましょう。

※「できもの」のように見えることがあります

ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

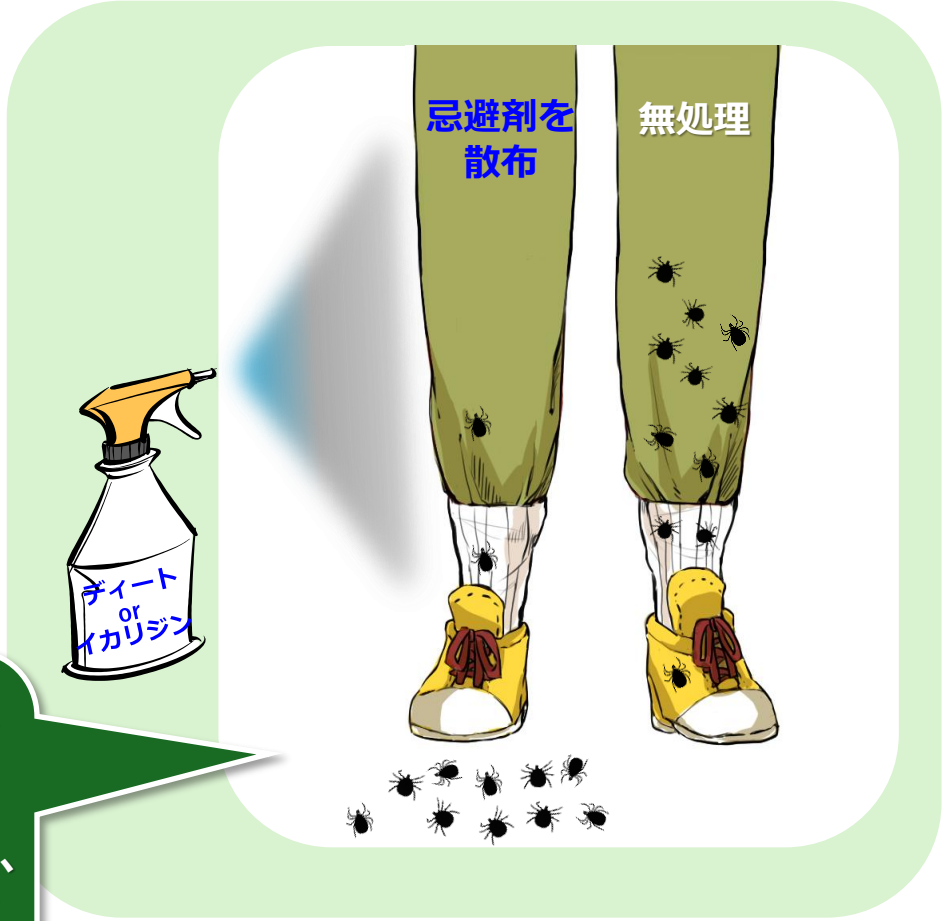
ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

マダニに刺されたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

イノシシを口で刺すマダニ

4.　忌避剤の効果

マダニに対する忌避剤（虫よけ剤）が、2013年から新たに認可されました。
現在は、ディート、イカリジンの2種類の有効成分を含む忌避剤が市販されています。



忌避剤の使用でマダニの付着数は減少しますが、マダニの付着を完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。

5.　国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分 類	効力持続時間の目安[1)]	注意事項	特 徴
ディート	5～10 %	防除用 医薬部外品	5～10%未満 1～3時間	6ヶ月未満には使用しない 6ヶ月以上2歳未満1日1回 2歳以上12歳未満1日1～3回	・高濃度ではプラスチック・化学繊維・皮革を腐食することがある
	12 %	第2類医薬品	10%、12% 3～5時間		
	高濃度製剤 30 %	第2類医薬品	5～8時間	12歳未満には使用しない	
イカリジン	5 %	防除用 医薬部外品	6時間まで	使用制限は特になし	
	高濃度製剤 15 %	防除用 医薬部外品	6～8時間		

1）人体用忌避剤の持続時間表示に係る自主基準（日本家庭用殺虫剤工業会）および医薬薬審発 1211 第７号 (2024)

参考資料 1）　マダニの分類とマダニ媒介感染症

マダニは、世界中に800以上の種が知られています。日本からは52種以上が確認されています。

ベルルスカクマダニ

クリイロコイタマダニ

カメキララマダニ

イエンチマダニ

フィリップマダニ

ツノチマダニ

シュルツェマダニ

ミナミネズミマダニ

クモ網 ― ダニ目 ― マダニ亜目

マダニ科（5属48種以上）

- マダニ属 *Ixodes*
- チマダニ属 *Haemaphysalis*
- キララマダニ属 *Amblyomma*
- カクマダニ属 *Dermacentor*
- コイタマダニ属 *Rhipicephalus*

ヒメダニ科（2属4種）

- ヒメダニ属
- カズキダニ属

ツバメヒメダニ

サワイカズキダニ

ヌッタリア科

（ヌッタリー科、ニセヒメダニ科とも呼ばれます。日本からは確認されていません。）

マダニが媒介する感染症

■ウイルスによる

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）
ダニ媒介脳炎
オズウイルス感染症※
エゾウイルス感染症
キャサヌル森林病
クリミア・コンゴ出血熱

※マダニによる媒介が強く疑われています

■リケッチアによる

日本紅斑熱、Q熱

■スピロヘータによる

ライム病

■細菌による

ボレリア症、野兎病

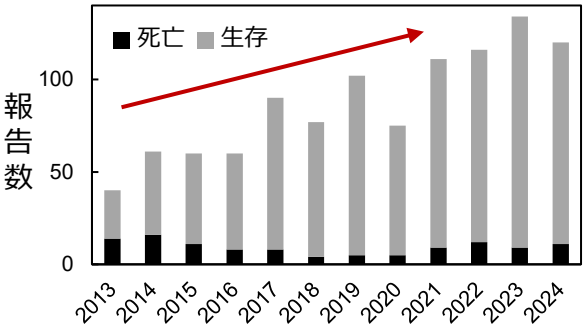
・・・・・など

注）つつが虫病を媒介するツツガムシはダニ目ケダニ亜目に分類され、マダニの仲間ではありません。

参考資料 2）　マダニ媒介SFTSとは

重症熱性血小板減少症候群 (Severe fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS)

これまでに1,071名（うち死亡事例117件）の報告、増加傾向



報告患者数の年次推移

少なくともフタトゲチマダニとキチマダニが媒介する

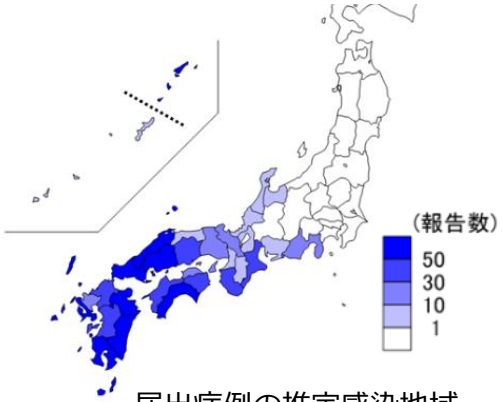
フタトゲチマダニ

キチマダニ

60代以上の高齢者に多い

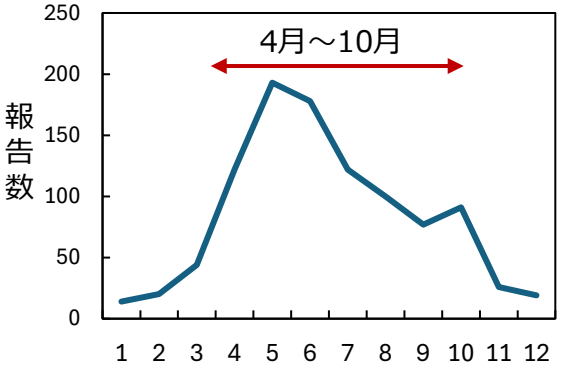
合計		1,071名
性別	男	538
	女	533
年齢	中央値	**75歳**
	～20代	12
	30代	15
	40代	19
	50代	65
	60代	**227**
	70代	**380**
	80代	**310**
	90代	43

西日本に多いが徐々に東日本でも



届出症例の推定感染地域

潜伏期間は6日～2週間で4～10月に多く発症



患者発症月（2014～2024年）

感染動物（ネコやイヌなど）からも感染

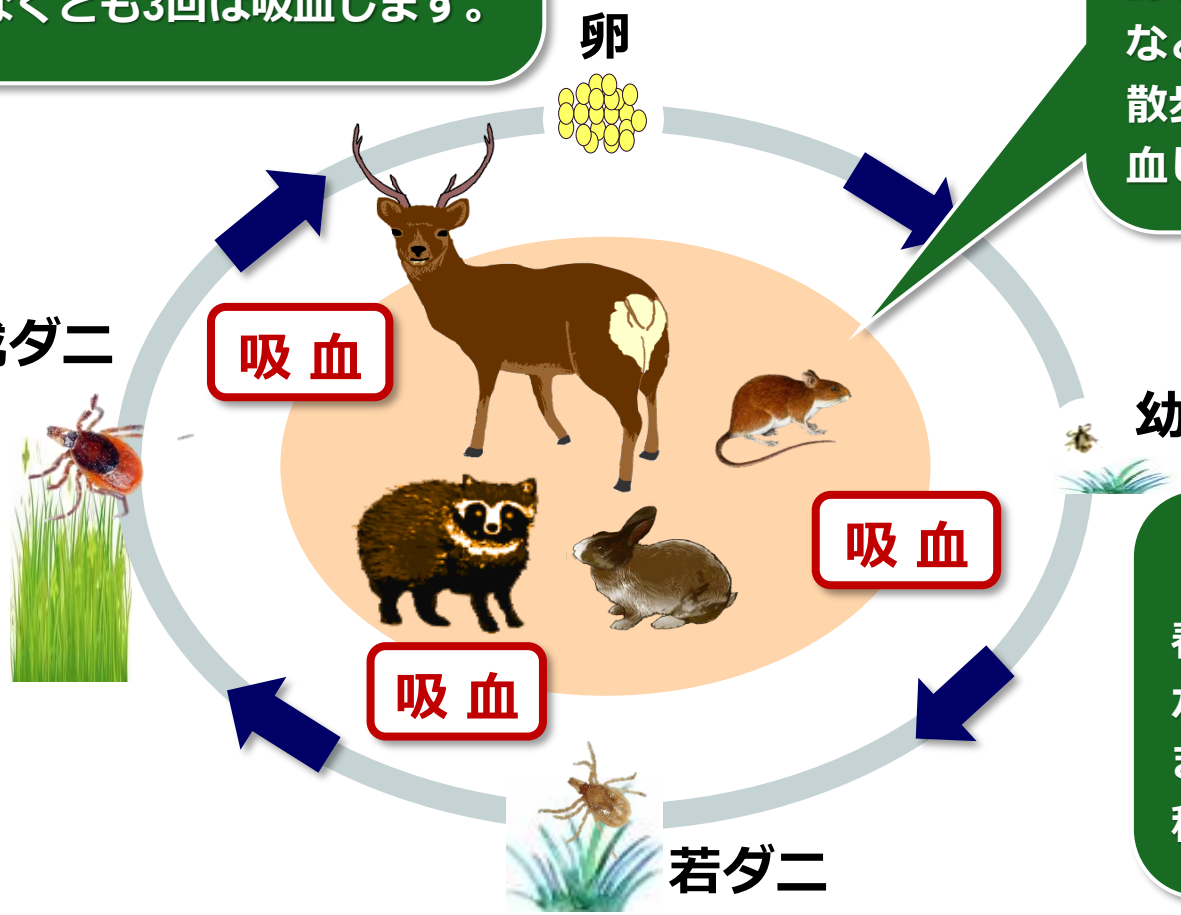
愛玩動物のマダニ対策も重要です

資料は、JIHS感染症情報提供サイトhttps://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/article/sfts/020/20250523144135.html （2025年4月30日）を引用

参考資料 3)　マダニの生活環

マダニは、
幼ダニ、若ダニ、成ダニの各ステージで1回以上、生涯で少なくとも3回は吸血します。

マダニは、
ヒト以外に、野ネズミ、野ウサギ、シカ、イノシシなどの野生動物や、ネコ、散歩中のイヌなどからも吸血します。



マダニの多くは、
春から秋（3～11月）にかけて活動が活発になりますが、冬季に活動する種類もいます。